

クマタカ

タカ目タカ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧 I 類

Spizaetus nipalensis (Hodgson)

国カテゴリー 絶滅危惧 I B類

選定理由

小型から中型の森林性の鳥獣の捕食者として、丘陵帯から亜高山帯までの森林生態系の頂点に位置する大型のタカで、近年繁殖率の低下が心配されている。

形態

全長約75cm。翼開長約1.5m。雄よりも雌が大きい。トビよりも大きいタカで、幅広く短い翼をもつ。全体に暗褐色で下面は淡く、胸には縦斑、腹には横斑がある。頭部は黒色で、後頭部の羽毛は冠羽状になる。尾には幅広い黒帯が数本ある。飛んでいるときに下から見ると、翼と尾の鷹斑がよく目立つ。幼鳥は全体に白っぽい。

国内分布

北海道、本州、四国、九州の山地で繁殖し、周年同一地域に生息する。佐渡、隠岐、対馬でも記録がある。

県内分布

医王山以南の山地に広く生息しているが、数は多くない。また能登半島でも目撃例がある。

生態

丘陵帯から亜高山帯の森林に生息し、アカマツに営巣する例が多い。繁殖活動に入るのは早く、1月中旬には巣作りを開始し、多くは3月に産卵する。一腹卵数はふつう1個で、抱卵日数は約45日、孵化から約70日後の7~8月に巣立ちする。キジ、ヤマドリなどの鳥類やノウサギを主食にする。

生息地の条件

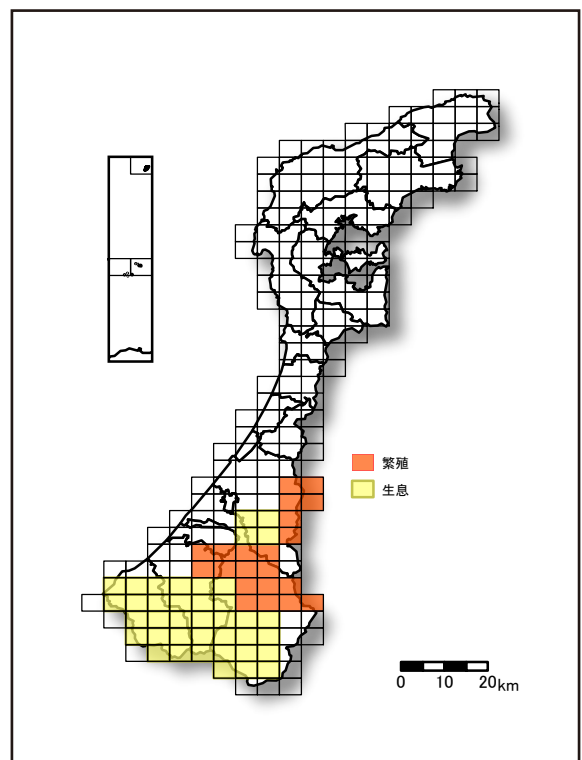
低山から亜高山帯の広葉樹と針葉樹の混交林や針葉樹林に営巣する。1ペアのクマタカが生息するためには4km四方の土地が必要といわれる。山間の伐採地、まばらな林間、開けた谷、林道などで狩りをするので、そのような餌場の存在も条件となる。山間部での人間活動による悪影響も受けやすい。

生存の危機

山間部での開発行為の影響を受けやすく、森林伐採、林道工事、砂防工事などの影響が心配される。(A)

特記事項

国内希少野生動物種。



県内の分布